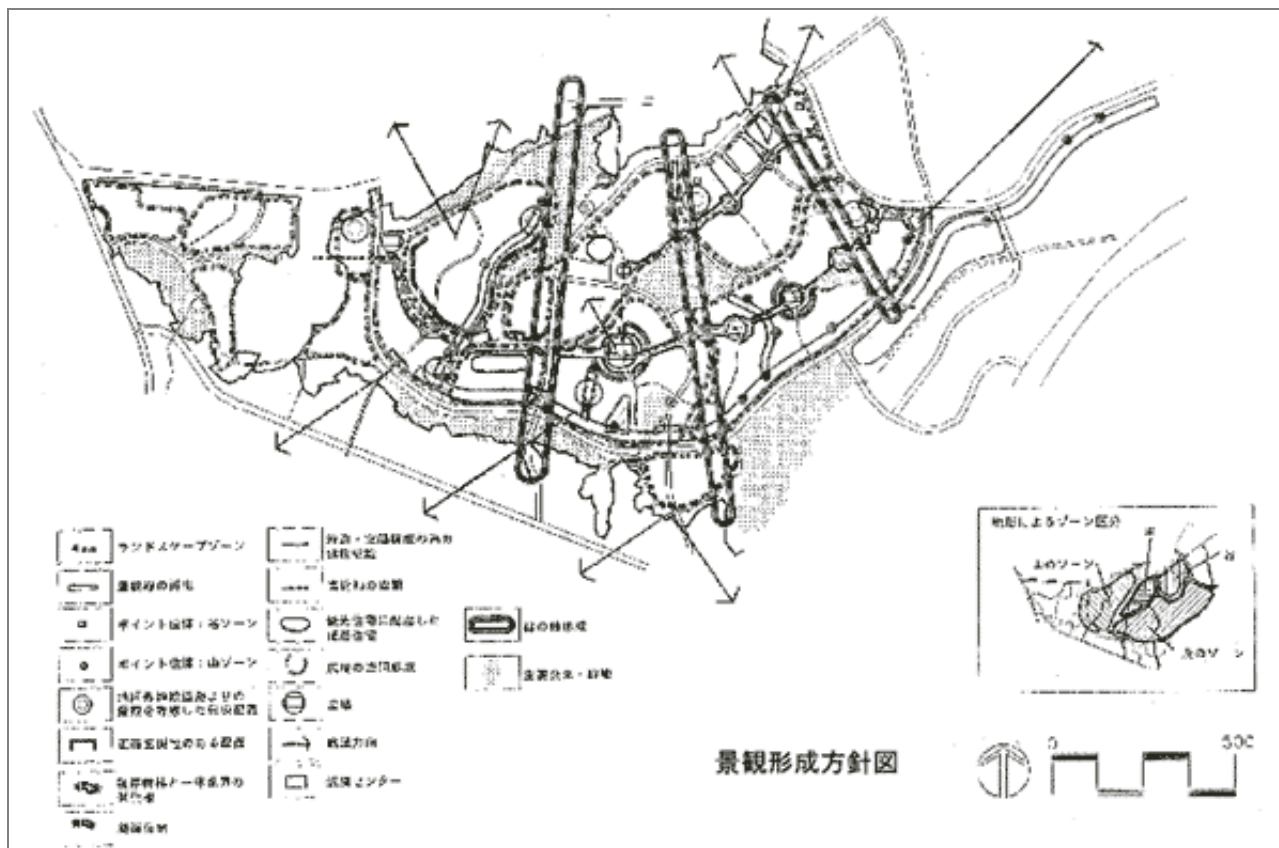


## ■ 多摩NT16住区景観計画



### ◆ 計画内容

#### ■ (1993年～、東京都、東京都住宅供給公社、住都公団)

16住区は多摩ニュータウンの西端に位置する住区で、区域面積137ha、計画戸数約4,000戸の大型住区である。住区内には既に立地している多摩美術大学に加え、多くの誘致施設の導入が予定されている。また緑に恵まれた多摩ニュータウンの中でもとりわけ豊かな緑地資源を有し、歴史遺産である絹の道の存在と相まって自然と歴史を身近に感じられる住宅地になることが期待されている。当社では1993年よりこの16住区の計画に携わり、土地利用計画・造成計画・住宅供給計画の見直しを進めるとともに、緑地資源の保全や環境共生的対応をも視野に入れた街並み形成の誘導に取り組んでいる。16住区では、前述のベルコリーヌ南大沢と異なり、住宅地の規模が大きく事業が長期化し、かつ事業主体が住宅だけでも都・公社・公団と3者になることから、固定的なデザインガイドラインやマスタープランに沿った事業化は不適切と判断された。このため東京都を中心として関係者の参画・協同を得て下記のような手順で実践的な取り組みを続けている。また景観計画では、緑の軸を尊重した4つの街の形成を基本として、それぞれの個性と全体としての統一感をバランス良く生み出すことを提起しながら、具体的にデザインのあり方を示している。

**第一段階**：緑地資源や歴史的資源の保全、環境との共生、生活空間としての歩行者専用道路の活性化等の観点に沿った16住区のマスタープランを「景観計画」としてまとめる。

**第二段階**：「景観計画」を現実の諸条件の中で実現化させていくため、これまで行われることのなかった関係者間相互の情報を交換するため計画調整組織を都多摩都市整備本部、住宅事業主体、八王子市、計画・設計者及びアドバイザー参画のもとに設置・運営する。

第三段階 : 上記調整組織により計画・事業両面の調整を進めるとともに、個別の具体的調整課題、例えば公共施設の管理問題や現場での微調整作業に関して別途担当者会議を設け、継続的に検討を進める。

